

# 「日本庭園と重森三玲」

会場：周南市文化会館 3F 展示室（徳山駅からタクシーで約5分）

講演会：4月29日（金）14：00～15：30

・講師：齋藤忠一氏 「重森三玲が庭園を作るまで」 ……2・3頁

写真展：4月29日（金）～5月3日（火） 10：00～17：00 「日本庭園が芸術であるためには」  
（但し最終日の5月3日（火）は15：00に終了）

1 日本庭園の特徴 ……4頁

2・1 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜区分 ……4頁

2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念 ……7頁

3 写真キャプション ……9～47頁

・写真&ギャラリートーク：庭園史研究家 中田勝康氏

・ギャラリートーク日時

4/29	（13：00～13：45）
5/2	（フリートークで13：00～17：00）
5/3	（13：00～15：00）

主催：重森三玲庭園の会

共催：周南市、周南市教育委員会、（公財）周南市文化振興財団、（一財）周南観光コンベンション協会

後援：山口県、山口県教育委員会、光市教育委員会、周南文化協会、潮陽会、京都林泉協会

協力：明るく元気な鹿野をつくる会

## I 齋藤忠一氏 講演内容

### 「重森三玲が庭園を作るまで」

- 1 雑誌『庭園』1925年6月号の6・7頁 より引用文 ……2  
(原文は縦書きであるが横書きに変換した)
- 2 重森生家の庭の写真 ……3

## II 中田勝康氏 写真展ギャラリートーク・キャプション内容

### 「日本庭園が芸術であるためには」

- 1 日本庭園の特徴 ……4
  - 1・1 日本庭園は世界的に見ても珍しいタイプの表現方法である ……4
  - 1・2 日本庭園が芸術であるためには ……4
- 2 日本庭園の全体像の把握 ……4
  - 2・1 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜区分 ……4
    - 2・1・1 系譜区分の基準 ……4
    - 2・1・2 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜図 ……5
    - 2・1・3 各系譜の具体例の庭園写真 ……6
  - 2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念 ……7
    - 2・2・1 抽象化度による庭園の区分の定義 ……7
    - 2・2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念図 ……7
    - 2・2・3 庭園における抽象度の写真例 ……8
- 3 展示写真のキャプション (庭園史上の位置づけ、文献など) ……9～47

# 枯山水と重森氏の處女作

日本庭園協會理事 田村 剛  
林 學 博 士

## (1)

枯山水が我が造庭意匠上に及ぼした影響のいかに大きいかは、殆ど想像の外である。枯山水は何人の創意であるかは知らぬが、恐らくは相阿弥の大仙院は最も古いものゝ一つであつて、彼を以てわが枯山水の鼻祖だということも大過はないであらう。爾来枯山水を築く者続出して、今日と雖も尚庭師は、水なき位置に築山を設けるに当たっては、子の手法を常套とするほどである。

桃山江戸時代に於て盛んに枯山水の築造せられたのはいふまでもない。ここに挿入した写真は、予が過般鳥取市内の舊家で撮つたもので、江戸時代の茶庭であるが、枯井戸を水源とする枯滝であつて、範とするに足る石組みの味ふべき技術を示している。蓋し佳作の一つたるを失わないものである。然しながら子の枯山水の意匠たるや、いかにも平凡であつて、少しも新味を有しない。この點は本庭園のみならず江戸時代庭園に共通する短所ともいへるかも知れない。

## (2)

こゝに紹介せんとする重森三玲氏の枯山水を一見して貰いたい(口絵)。まずその意匠の大仙院より多くの暗示をうけてゐるのに気付くであらう。植込を背山とする石組によりて瀧を象りそれを水源として流れを導いて来て石橋を架け石船を浮べてゐる。これは大仙院そのまゝである。然しながら、茲には少しも因襲がなく、捉われがない。スラくといかにも暢々とした意匠たるに於て、全く独創的のものと言ってもよろしいほどのものがある。流れの浅くゆるく廣く、恰も大河を想わせるやうな點などは、いかにも京都の溪谷風景ではなくて中国花崗岩地方の大川の秀麗なる風趣を描き出している。

庭は右手に茶室を有し、飛石の始まるところに、六畳二間が庭に面してゐる。写真は右の六畳からとつたものだといふ話である。従つて流れの末は座敷の椽の下へ流れ去ることになってゐる。図で見るように、飛石は流れを一度横断して、中央の踏分けに達し、こゝで二手に分れて、一つは右奥に消え、他は左方庭門より去るのである。水邊の捨石もさることながら、特に瀧付近の立石は古法によって最も嚴肅なものとなっている。

## (3)

讀者はこの庭の作者と、庭師の名を知りたいに相違ない。まず庭は岡山縣上房郡吉川村といふ、僻遠の地にあつて、最近出来したものである。この庭の意匠はこの庭の所有者である重森氏自身である。重森氏は庭に就いては全然素人であつた。兩三度予と談じたことはあつたが庭を造つたのはこれが始めである。その動機は拙者により豫て大仙院庭園の非凡なるを知り、京都遊覽の砌に大仙院以下の名園を訪れ、大いに相阿弥の妙技に感動してこれよりヒントを得て、自邸に自ら意匠することとなつたのださうである。さて庭師は如何。この地方には庭師は皆無である。そこで地割より石組に至る迄、悉く重森氏が現場で土方人夫を督して、なさしめたといふ話である。さればこの庭は全然素人の作庭で、併もその處女作なのである。

但し重森氏は日本畫に精しく、殊に絵畫史に密に生花に通じられた新しい藝術家である。

予は重森氏の作を見るに及んで、造園のことは冷やかな理屈でもなく、又無暗な練習でもなく、眞に芸術の殿堂に精進して、美の本體を確実に攬むことだということを深く考えさせられた。

茲に重森氏の處女作に對して満腹の敬意を表すると共に、わが造庭の技術に關する人士の發奮を希ひつゝ擱筆する次第である。

## 備考

当原稿は雑誌『庭園』1925年6月号の6・7頁(7巻)から引用した。また文章は作者の意図を尊重することや時代背景に鑑み旧字体にした。なお、読みにくい字については左記に記した。

茲(ここに)・暢々(のびのび)・スラく(繰り返しのひらがなは長いくの字)・椽(たるき)・豫(かねて)・砌(サイ・みぎり)・畫(が)・精しく(くわしく)・密(ひそか)・擱(カク・おく)

## 重森生家「天籟庵」 大正 13 年(28 歳) 岡山県吉備中央町

荒削りながら迫力に満ちた枯山水庭園で、自宅の茶室前に作ったもの。将来の質実剛健な雰囲気既に感じられる。

青年の重森が処女作を作ったのは自宅である。ここに枯山水式の庭を作った。よほどの理由（例えば施主が既存の池泉様式の庭の存続を望む）が無い限り枯山水様式の庭を作り続けた。なぜ枯山水にこだわったのかは、この庭からだけでは回答が得られないであろうが、じっくり観察したい。



当初の枯流れ

生家はやや小高くなった場所にあるが、築山の上に石を三段に組み、その上に端正な姿の二石を大徳寺 大仙院風に直立させている。

石組の前には実際の川を流す代わりに、白砂による抽象的な川を流した。デフォルメされた大河が滔々と雄大に流れている姿はまことに美しい。既に重森の個性が現れている。



現在は復元されていて、庭園周辺の樹木はありませんが石組みは変更されていない。

**「日本庭園が芸術であるためには」**

## 1 日本庭園の特徴

### 1・1 日本庭園は世界的に見ても珍しいタイプの表現方法である

日本庭園の素材は自然物であり、しかもその出来上がった造形も自然を写している。しかし、単に自然の造景を写しただけでは箱庭的な自然物のコピーであり、芸術とは言い難い。そこで、日本庭園の造景は自然の中のポイントとなる要素を抽象化するのである。自然を写しながらも抽象化された自然だ。このような創作分野は日本特有の自然に対する畏敬の念に由来していると思われるが、世界的な基準に照らして芸術と言えるためには、高度に抽象化される必要がある と考える。

### 1・2 日本庭園が芸術であるためには【中田勝康著『重森三玲 庭園の全貌』より抜粋】

庭園芸術の評価が難しい理由の一つは、素材が自然にある石、草木、砂、水であり、しかも、それらを使って造形された作品も、やはり何らかの意味で自然の風景であると言う点にある。多少下手な造形であっても、山や川があり、自然らしく作られていれば、ある程度の満足を得ることが出来るだろう。いわゆる自然の縮小コピーである。しかし、自然らしさを楽しむのであれば、自然そのものを楽しめば良いのであり、自然そのものに勝るものはない。庭園が芸術であるためには、自然の素材を使いながらも自然を超えた形を創造すること、言い換えるなら、あるがままの自然ではなく、人が感じた自然、単なる自然を抜け出した、自然を超えたものを創造することが必要である。

庭園と類似の芸術として、「いけばな」を考えればもっと明瞭である。素材は草木であって、神の作った自然そのものだ。この自然の素材で自然を超えた形を創作することは、一見簡単なようで非常に難しい。もちろん、無造作に花を生けても、それなりに美しい情景を得ることができる。しかし「いけばな」が単なる自然ではなくて、芸術であると考えられているとすれば、そこでは、花が作者によって自然から切り離され、改めて作者が作り上げた独自の自然が再構築されていなければならない。言い換えるならば、「自然を一度解体して、作者による新しい造景を再構築」することである。造園や「いけばな」のように造形物が自然に近い分野の創作活動は、素材は自然であっても、造形は自然を超えたものにする必要がある。出来上がった造形物に感動を覚える理由は、生の自然の美しさにあるのではなく、その造形物に創造性があるからである。

なお、日本庭園に求める理想像を「癒される」「落ちつく」「しっとりとする」を求める場合は自然の野山に勝るものはない。ここでは日本庭園に芸術的な造形を求める との考えからの区分である。

## 2 日本庭園の全体像の把握

日本庭園を論ずる場合、個々の庭園を解釈するのではなく、まずその発生から考察し、外来思想の影響を受けながら多様化したと考える。これらの流れを以下のような系譜図で俯瞰的に把握すべきであろうと考える。

### 2・1 日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜区分

2・1・1 系譜区分の基準 日本庭園を網羅的に示せば、ほぼ以下の5系列の系譜になる。

①神仙蓬莱庭園の系譜：亀島・鶴島・洞窟の造形で、飛鳥時代から現代まで続く縁起の良い庭。

②広大な池泉庭園の系譜：広大な敷地の池泉庭園であり、いわば覇者の庭とも云える庭を5区分した。

【①極楽浄土の庭・②寝殿造りの庭・③宮廷の庭・④大名の庭・⑤自然主義風景の庭】

③抽象枯山水庭園の系譜：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園を3区分した。

【①禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲】

④石組み構成美庭園の系譜：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

【①戦国武将の庭 ・②安土桃山時代の庭・③石組み構成美の庭】

⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜：小堀遠州に端を発したこの種の庭園は重森三玲によって充実した。しかし日本庭園としての歴史は浅いが、人類の普遍的な価値に適うと考え申請対象とした。

日本庭園の系統樹による生成と発展の系譜と具体例の写真を以降に示す。



2・1・3 各系譜の具体例の庭園写真 5つの系譜ごとに具体的な庭園例を以下に示す。

①神仙蓬莱庭園の系譜：道教の影響下に形成された神話で、不老不死、亀島、鶴島である。



飛鳥京跡苑池（明日香）



旧秀燐寺（滋賀県高島市）



左側より亀島・蓬莱山・鶴島：金地院（京都市）

②広大な池泉庭園の系譜\*：広大な敷地の池泉庭園であるが、各時代の風俗や宗教の影響を受け時代ごとに変化する。その原点は奈良時代の①極楽浄土の庭の庭に始まり、平安時代になると②寝殿造りの庭になり、江戸時代には③宮廷の庭や④大名の庭になり、大正時代には⑤自然主義風景の庭に発展してゆく。



①極楽浄土の庭：東院



③宮廷の庭：桂離宮



④大名の庭園：小石川後樂園



⑤自然主義風景の庭：平安神宮

③抽象枯山水庭園の系譜：平庭式抽象枯山水庭園で白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園を3区分した。

①鎌倉時代の禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲（現代）



①禅宗の舶来：龍門寺



①禅宗の舶来：常栄寺



①禅宗の舶来：龍安寺



②龍安寺以降：福田寺

④石組み構成美庭園の系譜：自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭を3区分した。

①戦国武将の剛健な庭 ・②安土桃山時代の絢爛豪華な庭 ・③石組み構成美の庭



①戦国武将の庭：朝倉遺跡



②安土桃山の庭：西本願寺



③石組み構成美の庭：国分寺



③石組み構成美の庭：粉河寺

⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜：小堀遠州に端を発したこの庭園は重森三玲によって充実した。



小堀遠州：金地院



小堀遠州：仙洞御所



重森三玲：岸和田城（S28）



重森三玲：漢陽寺（S48）

## 2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。

ここでは「日本庭園が芸術であるためには、世界基準にかなう造形性と抽象性」の視点で考える。

### 2・2・1 抽象化度による庭園の区分の定義

#### ① 具象的造形

- ①自然の中にある庵・東屋の風景（自然そのものを眺める田園風景）
- ②箱庭的に自然を模倣した造形（自然の要素を取捨選択せずに、あれこれ取り込んだ造形）

#### ② 象徴的造形（自然の風景をデフォルメした、やや抽象化された造形）

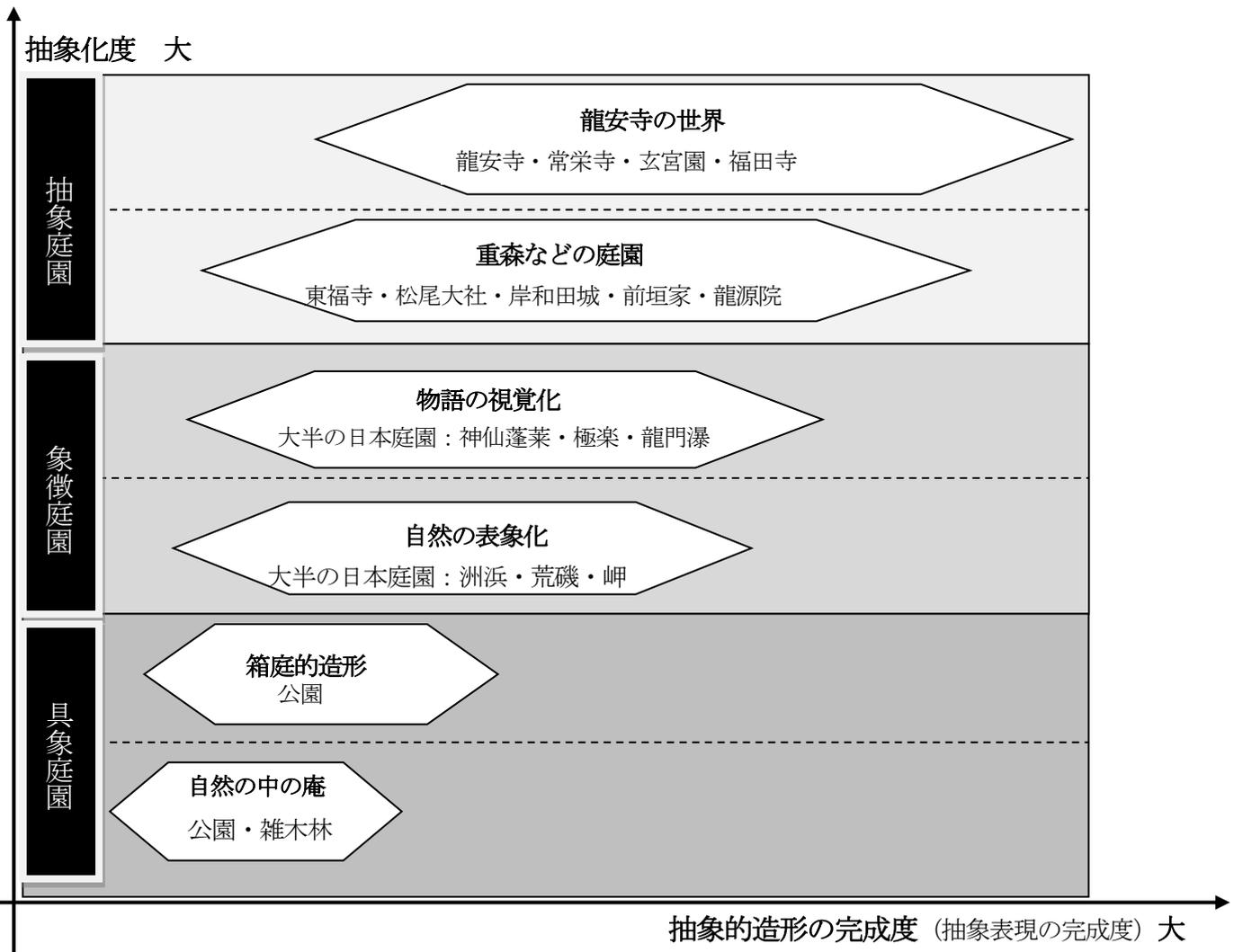
- ①自然風景のデフォルメ（表象化）した造形（例えば磯・洲浜など）
- ②神話・仏典の物語を視覚化した造形（例えば蓬莱山・須弥山・極楽など）

#### ③ 抽象的造形

- ①人工的造形（重森の造形）（自然の風景を高度に抽象し、自然には無い直線や曲線の形や色の造形）
- ②完全な抽象造形（自然の風景と関係ない龍安寺の世界）

### 2・2・2 抽象化度と造形の完成度に関する概念図

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。ただし、抽象化度の高い庭園は抽象思想を造形化することが困難なため、多くの日本庭園は下図に示したような象徴庭園の部類に属している。なお日本庭園は不可逆的に抽象化を目指したのではなく、試行錯誤の末、龍安寺の抽象庭園。



2・2・3 庭園における抽象度の写真例

① **具象的造形**：単なる自然や、自然の写しの庭は芸術とは言えないため、ここには表示しない。

② **象徴的造形**

②・①自然の風景をデフォルメした造形(洲浜・荒磯・遣水・曲水など)

古来より自然の風景を造形化する試みがなされていた。特に洲浜・遣水・荒磯である。



洲浜:東院



洲浜:西芳寺



荒磯:浄瑠璃寺



曲水:毛越寺

②・②神話・仏典・禅語録などの物語を視覚化した造形(蓬莱山・須弥山・極楽・九山八海など)

中国では既に秦・漢の時代から神仙蓬莱の世界をこの世に再現した。



坐禅石:西芳寺



龍門瀑:天龍寺



龍門瀑:普賢寺



九山八海:北畠神社

③ **抽象的造形**：具象的・象徴的な造形ではなく、自然界や神話などを想起させない、抽象度の高い造形を例示す。

③・①人工的造形：自然を高度に抽象し、自然には存在しない直線や曲線の形や色の造形の庭を作った。

a 洲浜・網干・網代模様の造形化：重森は自然の風景の造形化に努めた。



洲浜:光明院(S14)



曲水:斧原家(S15)



延段・竹垣:小河家(S35)



高度に抽象された洲浜:前垣家

③・②完全な抽象造形の庭：具体的な自然物や象徴ではない、全くの人工的な造形空間構成の優れた庭

A 古典庭園の例



龍安寺



桂家



久留島家



東海庵

B 重森三玲(鍋島岳生)の世界



東福寺(重森三玲 S14)



前垣家(重森三玲 S30)



漢陽寺(重森三玲 S44)



龍源院(鍋島岳生 S35)